

# ジェンダー史学会 春のシンポジウム

## 「地域研究としての女性史 まなび・かたり・つなぐ」

### <日時>

2014年5月17日(土) 13:00~17:00 シンポ、終了後に茶話会

### <場所>

滋賀県立男女共同参画センター (G-NET しが) 大ホール

〒523-0891 近江八幡市鷹飼町 80-4 JR 近江八幡駅から徒歩 10 分

アクセス <http://www.pref.shiga.lg.jp/c/g-net/map/map.html>

●当日、託児を希望の方は、[幼児室ご利用の皆様へ](#)をご覧ください。託児依頼票に必要事項をお書きいただき、5月10日までに問い合わせ先メールにお送り下さい。なお、お引き受けできる人数に制限があります。

### <プログラム>

基調講演 早田リツ子 (女性史カフェ主宰) 「わたしと女性史研究」

聞き手 京樂真帆子 (滋賀県立大学)

映画上映 『村の婦人学級』 (羽田澄子監督・1956年)

報告 井上多佳子 (こなん女性史の会) 「『村の婦人学級』からのまなび」

小椋樹里 (JA 東びわこ) 「塚本さとと地域女性教育」

三上みえ子 (元近江八幡の女性史を拓く会) 「石けん運動と女性たち」

総合討論 「女性史的地域の楽しみ方」

司会：京樂真帆子

### <趣旨文>

1970年代以降、暮らしや学び、働くこと、をキーワードとした地域の市民運動は、現実の住民生活の課題を共有するなかで、過去の女性史の掘り起こしを進め、開発目線の地域研究とは異なる歴史研究の蓄積をもたらしてきた。

1990年代後半からは、戦後史のなかで女性たちの学びがどのように取り組まれ、進められてきたのか、再発見と再認識も進む。1956年、羽田澄子監督によるドキュメンタリーフィルム『村の婦人学級』が撮影された滋賀県南部に位置する岩根の女性たちや1970年代での住民環境運動である石けん運動などの実践例とその学びを紹介しながら、滋賀の地域女性史の経験を、まなび、かたり、未来に向けてつなぐ試みとしたい。ジェンダー史学会

### <共 催>

滋賀県立男女共同参画センター

<参加費> シンポジウム無料、茶話会 500円

<問い合わせ先> 〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22

大学生協学会支援センター内 ジェンダー史学会事務局

E-Mail [jendersimpo@univcoop.or.jp](mailto:jendersimpo@univcoop.or.jp)